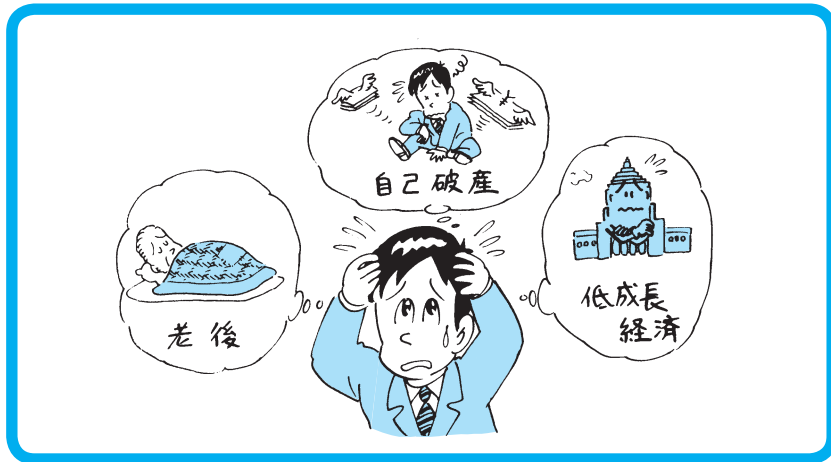


序章



ライフプランを
つくりなさい！

ライフプランにもとづく資産形成は とても大切！

第1項

マイナス金利政策とデフレの影響

かつての日本は、右肩上がりの経済成長に伴い、不動産や上場株式などの資産価値が長期の上昇を続けました。しかし、1990年代前半のバブル崩壊を契機として、「土地神話」や「インフレ神話」は過去のものとなっています。

終身雇用制度と年功序列型賃金で順調に増えていた個人の給与も、1990年代半ば以降は、低成長やデフレ（≡物価等の下落）の影響であまり伸びていません。早い時期から、将来を見据えた資産形成を始める必要があるということです。

そういえば、50年ほど前（1966年）の大卒の初任給は25,000円くらいだったって聞いたことがありますよ……。



昨日よりも今日、そして、今日よりも明日……。日々の暮らしが、確実に良くなっていくという、古き良き時代だったということね。

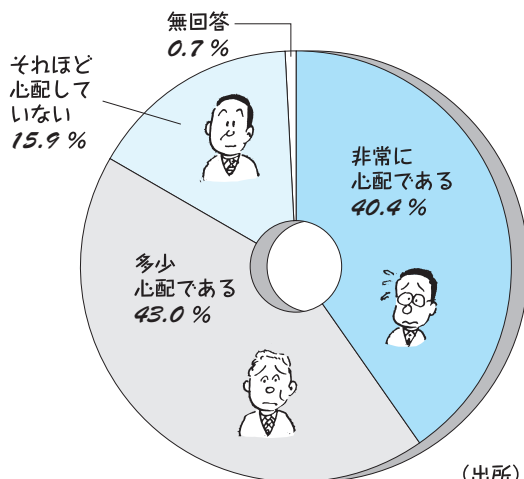
でも、いまは昔と違って、20年近くもデフレが続いてますよね。日銀の「マイナス金利政策」の影響で預金金利もほぼゼロ%になっちゃいましたし……。これじゃあ、全然お金は増えないですよ。



だからといって、落ち込んでちゃいけないわ。預金でお金を貯めることも大切だけど、投資信託などで運用して資産を増やすことも検討しなきゃね。

まずは結婚や子育て、老後の生活など、将来のライフイベントを想定して、長期的な資産形成を考えましょう。

老後の生活についての考え方



(出所) 金融広報中央委員会
「家計の金融行動に関する世論調査」(2016年)
(2人以上世帯調査)

第2項

時代背景と生涯のバランスを考えた計画が必要

昔は、「借金も財産のうち」という言葉があったように、インフレで目減りする借金（ローン）を利用して、インフレ以上に値上がりする不動産などの実物資産を取得するのが、資産形成における上手な方法でした。特に、会社員にとっては、マイホームの取得が「資産形成の王道」だったといえるでしょう。

しかし、バブル経済崩壊後、状況は一変します。

1991年以降、一時期を除いて地価は下落を続けました。住宅ローン金利の低下などもあり、昨今では都市部の住宅価格は上昇していますが、デフレが定着し、かつてのような借金の目減りは起こっていません。人口の大減少時代も始まりましたので、将来的な日本経済への影響も懸念されます。

目先のマイホーム取得だけに全力を注ぐのではなく、子どもの教育費や老後費用などとのバランスも考えた、トータルな資産形成が求められます。

「昔の常識、いま非常識」ってわけですか……。昔うまくいった方法が、いつまでもうまくいくとは限らないんですね。



今後の物価動向などでも、資産形成の勘どころは変わるし、なにより長期的な視野で考えることが大切よ。

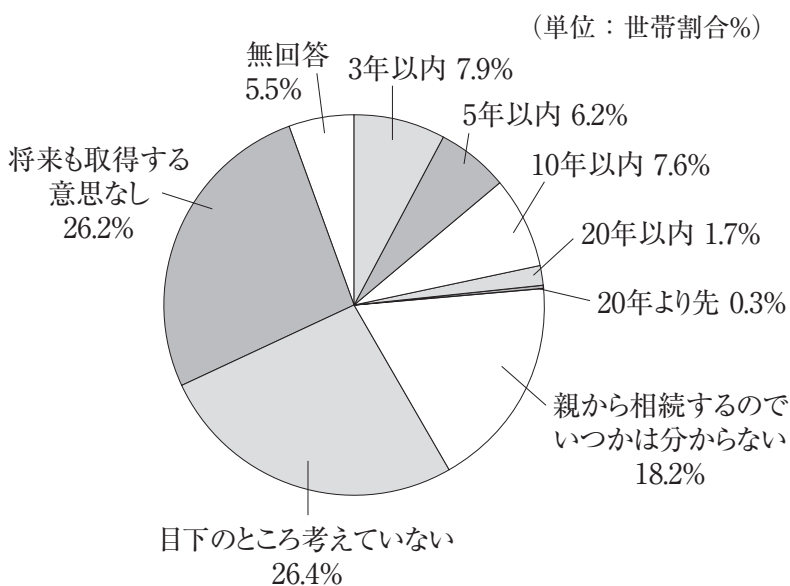
将来なんとかなるだろう、なんて思っ
てはいけないんですね。こりゃあ、真剣
に計画を立てる必要があるなあ。



「人生、山あり谷あり」ってよくいわれ
るけど、昔は人生って、短距離走だった
のかもしれない……。とにかく、目先を
全力疾走すればよかったのよ。

でも、いまじゃ、間違いなくマラソン
と同じね。ペース配分を考えないと、完
走さえできない、なんてことになるかも
しれないんだから……。

住宅の取得予定時期(非持家世帯)



(出所)金融広報中央委員会「家計の金融行動に関する世論調査」(2016年)
(2人以上世帯調査)

第3項

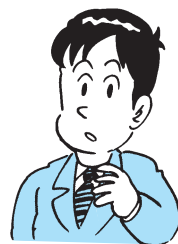
ライフプランにもとづくトータルな資産形成

昔は、住宅の取得など、目先のハードル（ライフイベント）を全力で飛び越せば、経済成長とインフレのおかげで、次のハードル（子どもの教育費の準備など）までに体力（資産や生活状況）が回復する時代だったといえるでしょう。

先のことは、とりあえず、あまり心配しなくてもよかったわけです。

しかし、現在では、目先のライフイベントに全力を使い果たすと、次のハードルがクリアできないことさえ懸念されます。このような時代には、自分たちの「ライフプラン」を明確にして、その航海図ともいえるべき「ファイナンシャル・プランニング」を、具体的に策定しておくことが求められます。

将来、こういう生活を送りたい、とか、子どもにはこういった教育を受けさせてあげたい、というような、「将来に対する夢や希望」……。これを明確にしたものが、本来の意味での「ライフプラン」なんです。



その「ライフプラン」を実現するためには、いい悪いは別として、ある程度、お金の裏付けがなきゃいけないでしょ。

……ということは、「ライフプラン」という「夢や希望」をかなえるための「マネープラン」をつくるのが、いよいよ不可欠な時代になったわけですね。





そのとおりよ。そして、その「架け橋」となるのが、「ファイナンシャル・プランニング」に関する知識や経験、ってわけね。

昨今では、金融の世界でも大競争時代を迎えています。また、規制緩和の進展によって金融商品も複雑になり、どれを利用すればいいかという選択肢も広がってきました。自分にぴったりの商品はどれか、誰もが迷ってしまう状況。「自由化の進展」で、ますますファイナンシャル・プランニングに関するニーズが期待できるといえるでしょう。

ホント、たくさん金融商品があるわけで、どれを利用すればいいか、迷ってしまいます。



だからこそ、ファイナンシャル・プランニングの知識が欠かせないんでしょう。

……これからは、自分と自分の大切な人は、自分が守らなきゃいけない時代なんだ。よーし、ボクも頑張って、花子さんのことを一生守り抜くぞ！

そのためには、もっといろんなこと、勉強しなきゃ！

